令和３年度 授業改善推進プラン 算数科

	観点別		
学年	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
１年	・数量（加法・減法）や図形などの基礎的・基本的な知識を身に付けさせる。 ・学習したことを定着させるため、既習事項について日常の中で活用できるように児童に声をかける。実生活とのつながりがもてるように他教科や生活の中でも具体的な場面が作れるように意識していく。 ・数量（加法・減法）や図形などの基礎的・基本的な技能を身に付けさせる。 ・ブロックや時計などの使い方を定着させる。	・算数的活動を多く取り入れ、自分の考えを説明できるようにさせる。 ・問題を解く際に自分なりの図が描けるように指導し、文章と図と式の関わりを明確にできるようにする。	・ノートの書き方を定着させ、学習の振り返りができるようにしていく。 ・ペアトークの時間を設定し、主体的・対話的に学習できるようにする。 ・ICT機器を活用して課題を視覚的に示したり、関心を高めたりしながら授業に参加できるようにする。
２年	・長さや水のかさの単位については、問題を繰り返し解くことで理解の定着を図る。 ・四角形や三角形の図形については、作業的に操作することでそれぞれの図形の仕組みを理解させる。 ・加法と減法の筆算を確実にできるようにする。 ・九九の学習では、リズムをつけた暗唱をくり返し行い、乗法の基礎が定着するようにする。	・数と計算では、身近な事象を取り上げ、九九表の規則性などを既習事項をもとに考えさせる。 ・自分の考えを分かりやすく説明できるようなノート指導を行い、学習の振り返りにつなげるようにする。	・作業的・体験的な活動を取り入れ、児童が主体的に学習する態度を養う。 ・習熟場面と活用場面を設定し、習得したことをもとに自分で考えられるような授業展開を行い、ペアトークの時間を設定し、主体的・対話的に学習できるようにする。
３年	・大田区ステップ学習のたしかめプリントを活用し、合格基準に達するまで繰り返し練習させる。 ・放課後補習教室、土曜補習教室、家庭学習などでも繰り返し復習し、基礎的な内容を理解できるようにする。 ・除法の筆算の計算問題を繰り返し行い、定着させる。 ・コンパスを使った活動を多く取り入れたり、日常的に定規を使用したりさせ、道具の使い方を定着させる。	・既習の考え方を基にして、自分の考えを図や数直線や式などで表すことができるようにする。 ・日常の事象について、見通しをもって筋道立てて、考えたり、表現したりする。	・少人数指導のよさを生かして、児童一人一人の進度に沿った学習内容を工夫する。 ・問題解決型の学習形態をとり、主体的に学習を進められるようにする。 ・具体物を用いて、問題に興味をもって取り組むことができるようにする。
４年	・大田区ステップ学習のたしかめプリントを活用し、合格基準に達するまで繰り返し練習させる。 ・放課後補習教室、土曜補習教室、家庭学習などでも繰り返し復習し、基礎的な内容を定着させる。 ・乗法や除法が確実にできるように、基本的な問題、いろいろなパターンの問題を繰り返し学習させる。 ・コンパス、三角定規、分度器を使って表したい図形が正しく表せるように繰り返し練習させる。	・自分の考えを表現するための「思考ツール」を身に付けさせ、答えに至るまでの過程を、筋道を立てて考えたり伝えたり表現したりする力を高めるようにする。	・少人数指導のよさを生かして、児童一人一人の進度に沿った学習内容を工夫する。 ・問題解決型の学習形態をとり、「できた」「わかった」という実感がもてるような授業の展開を計画する。
５年	・大田区ステップ学習のたしかめプリントを活用し、合格基準に達するまで繰り返し練習させる。 ・放課後補習教室、土曜補習教室、家庭学習などでも繰り返し復習し、基礎的な内容をしっかり理解できるようにする。 ・小数の乗法・除数など、計算技能を高められるよう、継続的に練習に取り組む。 ・図形の性質を使った作図など、単元の学習以外にも朝学習や宿題などで繰り返し練習する場を設け、練習させる。	・自分の考えを表現するための「思考ツール」を身に付けさせ、答えに至るまでの過程を、筋道を立てて考えたり伝えたりする力を高めるようにする。 ・表現をする際に、適切な「思考ツール」が選べるようにする。	・少人数指導のよさを生かして、児童一人一人の進度に沿った学習内容を工夫する。 ・問題解決型の学習形態をとり、「できた」「わかった」という実感がもてるような授業の展開を計画する。
６年	・基礎的・基本的な学習内容の定着を図るため、授業において活用／習熟の時間を設ける。 ・家庭学習などを活用し、学習内容の理解と定着を図る。 ・理解が不十分な児童に対しては、放課後補習や土曜補習などを活用して補充的な指導を行う。 ・タブレットパソコンにおける習熟を行うなど、学習の個別最適化を図る。	・立式する際には数直線を活用するなど、自分の考えを視覚的に表現できるよう、指導の工夫を図る。 ・実物投影機などを活用し、自分の考えを分かりやすく発表する場面を設ける。	・少人数指導のよさを生かして、一人一人の理解の状況に合わせた指導の工夫を行う。 ・問題解決的な指導の充実を図るとともに、発展的な内容および前学年までの内容の復習を行うなど、児童の実態に合わせた指導を行う。